

## 染色浸透探傷剤

# スーパーチェック

有機溶剤中毒予防規則対策品は、作業環境の改善、法令による規制の緩和および検査精度の向上に役立つ染色浸透探傷剤です。



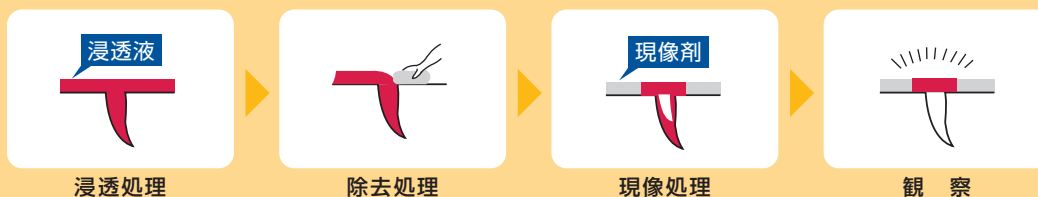
### 特徴

- 欠陥検出精度はJIS規格、ASME規格等に準拠する試験結果が得られます。
- 有機則対策品は、労働安全衛生法および有機溶剤中毒予防規則(有機則)に該当しませんので、労働安全衛生面の向上、作業環境の改善に役立てられます。
- 特定化学物質等障害予防規則に該当しません。
- 欠陥の指示模様の形成が早くなりました。
- 浸透液および現像剤の除去性が良くなりました。

### 適用対象

- **金属材料** 圧延品(鋼板、棒鋼、鋼管)、鍛造品、鋳造品、溶接部等の表面に見られる欠陥
- **非金属材料** プラスチック、陶磁器、セラミックス、ガラス等の表面に見られる欠陥

### 基本の原理



## 染色浸透探傷剤

# Super Check



### 種類と主な用途

用途	組み合わせ品名	洗浄方法	特徴	規格		
一般材料用	浸透液 UP-ST (J) 洗浄液 UR-ST 現像剤 UD-ST 現像剤 UD-ST・V	溶剤除去法	鉄、非鉄金属のあらゆる材料の探傷に最適。 設備を必要とせず、大型構造物の部分探傷や、溶接部の探傷に最適。 防衛庁認定品。 UD-ST・VIはUD-STより乾燥が速く低温または多湿時に最適。(超速乾性)	JIS		
	浸透液 P-GⅢ(EXP) 現像剤 UD-ST	水洗除去法	水洗性のため、検査コストが安く、素材、セラミックスおよび大型試験品の探傷に最適。			
	浸透液 UP-GⅢ・N 現像剤 UD-ST 現像剤 UD-ST・V	水洗除去法	水洗性のため検査コストが安く、スラブ、大型試験品及び小物量産部品の探傷に最適。形状が複雑な部品の検査にも適用可能。			
	浸透液 P-LK 浸透液 UP-GⅢ・W 現像剤 D-LW 現像剤 D-LW・K 現像剤 D-LW・N		P-LK、UP-GⅢ・Wは非危険物であり、水洗性が良いタイプ。  D-LW、D-LW・K、D-LW・Nは水分散型現像剤であり、スラブや大型試験品の探傷に最適。			
	低ハロゲン 低イオウ用		浸透液 UP-T (J) 洗浄液 UR-T 洗浄液 UR-T・M 現像剤 UD-T 現像剤 UD-T・V	溶剤除去法	ステンレス鋼、チタン合金、ニッケル合金の探傷に最適。 (硫黄：10wtppm以下、塩素：100wtppm以下、ふっ素：30wtppm以下)  UD-T・VIは、低温または多湿時に最適。(超速乾性)	JIS ASME
			浸透液 UP-GⅢ・T (J) 洗浄液 AS-T 現像剤 UD-T 現像剤 UD-T・V	水洗除去法	ステンレス鋼、チタン合金、ニッケル合金の大型部品の全面探傷、表面の粗いものの探傷に最適。(硫黄：10wtppm以下、塩素：100wtppm以下、ふっ素：30wtppm以下) AS-Tは、溶接部、試験面の複雑形状箇所等の探傷に最適。	
	非危険物	浸透液 UP-NU・G (J) 洗浄液 UR-NU・G 現像剤 UD-NU・G	溶剤除去法	非危険物の溶剤除去性の探傷剤。フロン対策品。	JIS	

## 性状、消防法、有機溶剤中毒予防規則区分について

浸透液						
品名	比重	粘度 (cSt)	引火点 (°C)	消防法 (第四類)		有機溶剤中毒予防規則
				品名	性質	
UP-ST (J)	0.84	2.6	90°C 前後	第三石油類	非水溶性液体	該当せず
UP-T (J)	0.84	2.7	90°C 前後	第三石油類	非水溶性液体	該当せず
UP-GⅢ・N	0.85	3.3	70°C 前後	第二石油類	水溶性液体	該当せず
UP-GⅢ・T (J)	0.85	3.3	70°C 前後	第二石油類	水溶性液体	該当せず
UP-GⅢ・W	1.01	3.4	引火せず	非危険物		該当せず
UP-NU・G (J)	1.37	1.1	引火せず	非危険物		該当せず
P-GⅢ (EXP)	0.86	1.7	55°C 前後	第二石油類	水溶性液体	第三種有機溶剤等
P-LK	1.01	5.3	引火せず	非危険物		該当せず

洗浄液					
品名	比重	引火点 (°C)	消防法 (第四類)		有機溶剤中毒予防規則
			品名	性質	
UR-ST	0.69	-5°C 前後	第一石油類	非水溶性液体	該当せず
UR-ST・M	0.73	23°C 前後	第二石油類	非水溶性液体	該当せず
UR-T	0.69	-5°C 前後	第一石油類	非水溶性液体	該当せず
UR-T・M	0.73	23°C 前後	第二石油類	非水溶性液体	該当せず
UR-NU・G	1.49	引火せず	非危険物		該当せず
AS-T	1.00	引火せず	非危険物		該当せず

現像剤					
品名	比重	引火点 (°C)	消防法		有機溶剤中毒予防規則
			品名	性質	
UD-ST	0.83	-5°C 前後	第一石油類	水溶性液体	該当せず
UD-ST・V	0.82	-10°C 前後	第一石油類	非水溶性液体	該当せず
UD-T	0.81	-5°C 前後	第一石油類	水溶性液体	該当せず
UD-T・V	0.82	-10°C 前後	第一石油類	非水溶性液体	該当せず
UD-NU・G	1.42	引火せず	非危険物		該当せず
D-LW	—	引火せず	非危険物		該当せず
D-LW・K	—	引火せず	非危険物		該当せず
D-LW・N	1.06	引火せず	非危険物		該当せず

## 消防法指定数量（第四類）

種別の品名	性質	引火点	指定数量
第一石油類	非水溶性液体	21℃未満	200ℓ
	水溶性液体		400ℓ
第二石油類	非水溶性液体	21℃以上70℃未満	1000ℓ
	水溶性液体		2000ℓ
第三石油類	非水溶性液体	70℃以上200℃未満	2000ℓ
	水溶性液体		4000ℓ
第四石油類		200℃以上250℃未満	6000ℓ
アルコール類			400ℓ

- ※1→ 引火点はJIS-K-2274クリーブランド開放式、JIS-K-2539タグ密閉式引火点試験器により測定。
- ※2→ 貯蔵できる数量については、地方条例により規制を受けるのでご注意ください。

## 管理および取り扱い上の注意事項

### 1. 危害予防

- ① 染色浸透探傷剤は、その性格上、換気の良いところで火気に注意してご使用ください。
- ② 有機則対策浸透液は、いずれも引火点が高く（70℃以上）、灯油（JIS規格で50℃以上）と同程度の取り扱いで差支えありません。
- ③ エアゾール型（加圧容器）では、貯蔵には特に注意が必要です。
  - 直射日光に当てないこと。
  - 40℃以上の熱を与えないこと。
  - 火気近くおよび温度の高いところでは使用しないこと。
  - 60℃以上の熱がかかりますと、エアゾールの噴射剤がガス化して体積が膨張するため、急激な圧力上昇を招き、破裂する場合があります。そのため、高温の場所に保管したり投棄しないでください。
  - 酸、アルカリ、水銀等の金属を腐食または脆化させる薬品と接触する可能性のある場所には保管しないでください。

### 2. 取り扱い上の注意

- ① スーパーチェックは、すべてclosed containerタイプのため、検査液は密閉して溶剤が蒸発しないようにし、検査に必要な分量だけを別の容器にとって使用するようしてください。
- ② エアゾール使用上の注意  
現像剤は、冬期夏期は気温の変化により溶剤蒸発の状況が異なるため、気温の変化に応じて、試験品とエアゾールのノズルの距離を適宜に変えて、微粒子が均一に塗布できるようにする必要があります。また、使用せずに長く放置しておくと、次第に缶の下部へ現像粉末が沈降していきます。そのため（特に長い時間放置したものは）使用に先立ってよく振って、粉末をすっきりほぐしてよく懸濁させることが必要です。気温16℃以下の場合は、30℃以下の温湯で温めてから使用してください。
- ③ 横または逆さまにして長時間噴射すると缶内のガスのみが噴出し、その後の噴射圧が低下して使用できなくなる場合があります。噴射するときは、ノズル部を上にして使用するようご注意ください。
- ④ 詳細は、製品安全データシート（SDS）をご参照ください。

## 備考

塗布面積	エアゾール方法（450型）		浸透液	約12㎡
			現像剤	約4.5㎡
容量	はけ塗り方法（缶入）		浸透液 1ℓ	約33㎡
			現像剤 1ℓ	約30㎡
	セット	エアゾールセット	浸透液×1、現像剤×2、洗浄液×3、計6本	
		浸透液	エアゾール450型缶・1ℓ缶・18ℓ缶	
	洗浄液	エアゾール450型缶・1ℓ缶・18ℓ缶		
	現像剤	エアゾール450型缶・1ℓ缶・18ℓ缶		
浸透探傷用試験片	アルミニウム焼き割れ試験片		JISタイプ3対比試験片	

非破壊検査・マーキングの総合メーカー



**マークテック** 株式会社

本社 〒143-0015 東京都大田区大森西4-17-35  
TEL. 03-3762-4451 FAX. 03-3764-4337  
URL : <http://www.marktec.co.jp/>

東日本サービスセンター TEL. 03-3765-1712 FAX. 03-3768-3958  
西日本サービスセンター TEL. 06-4861-3700 FAX. 06-4861-3702  
成田工場 (ISO14001 認証取得) TEL. 0476-49-3160 FAX. 0476-49-3181

※改良のため予告なしに仕様を変更する場合があります。

